

イベント等における安全管理チェックシート・注意事項

1 露店・屋台等の設営

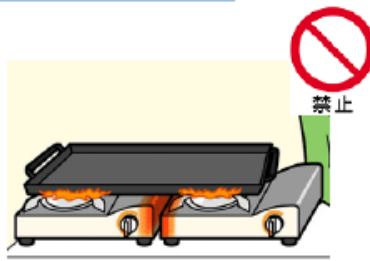
- 避難通路や防火水槽・消火栓など消防水利の妨げになる場所には、設営しない。
- 強風などで屋台・テントが倒壊・飛散しないように固定をする。
- 消火器の準備をする。

2 LPガスの使用

- ボンベは火気から離れた直射日光の当たらない通気性の良い場所に設置する。
- ボンベは安定した場所に転倒しないように設置するとともに必要に応じ観客などと区画する。
- コンロなどの周囲は可燃物から一定の距離を保つ。
- 火気使用器具の周囲は常に整理・清掃に努める。
- ゴムホースは適正な長さで、ひび割れなどの劣化のない専用のものを使用する。
- 火気使用器具とホースの接続は確実にを行い、ホースバンドで固定する。

3 カセットこんろの使用

- カセットボンベ容器カバーを覆うような大きな調理器具を使用しない。
- 2台以上を並べて使用しない。
- 炭の火おこしなど調理以外の用途に使用しない。



4 ガソリンなどの貯蔵・取扱い

- ガソリンなどの保管または取扱い場所では、みだりに火気を使用しない。
- 容器は消防法令に適合した金属製容器を使用し、キャップを確実にしめる。
- 容器は火気や高温部から離れた、直射日光の当たらない通気性の良い床面で保管する。
- ガソリンなどを保管または取扱う場合は、観客などから十分に安全な距離を取る。
- 開口前の圧力調整弁（圧抜き）の操作などは、容器の取扱説明書などに従い適正に行う。



ガソリンの貯蔵に適した容器の例
(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
(樹脂製容器は火災危険性が高い)

【ガソリンの特性】

- ◆ 引火点はマイナス40度程度と低く、極めて引火しやすい。
- ◆ 揮発しやすく、その蒸気は空気より約3～4倍重いので、低所に滞留しやすく可燃性の蒸気が広範囲に形成されやすい。
- ◆ 電気の不良導体であるため、流動などの際に発生した静電気が蓄積しやすい。

【ガソリンの危険性】

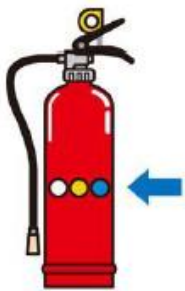
- ◆ ガソリンを取り扱っている場所から1メートル離れた場所に置かれた洗濯機で火災に至った事例や、火気や火花がなくても人体に蓄積された静電気で火災に至った事例が報告されていますので、ガソリンを取り扱う場合は細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。

5 発電機の使用

- ガソリンなどを燃料とする発電機を使用する場合は、安全な場所に設置し管理する。
- 発電機の運転中の燃料補給は絶対に行わない。

6 消火器の種類

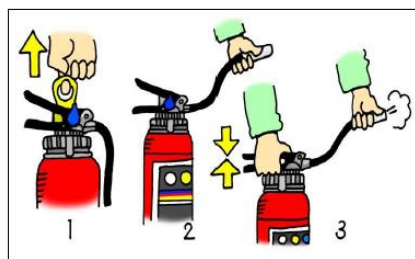
消火器は、燃えているものによって、使えるものと使えないものがあります。どの火災に使えるのかは、絵表示によって表されています。



普通火災 (白)	木材、紙、布など
油火災 (黄)	てんぷら油、灯油、 ガソリンなど
電気火災 (青)	電気の機械や器具 など

7 消火器の使い方

- ① 黄色い安全栓を抜く。(火元まで運んでから抜く。)
 - ② ノズルの先をしっかりと持ってホースをはずし、火元に向ける。
 - ③ レバーを強く握る。(固いときは体重をかける。)
- ◆ 炎や煙ではなく、燃えているものに向けてほうきで掃くように消火する。
 - ◆ サビやキズがある消火器を使うと破裂する危険があるので、そのような消火器は絶対に使わない。



◎ 問い合わせ先

宮崎県東児湯消防組合 消防本部予防課

TEL 0983-22-1368